

寺だより

26/01/15
第 116 号

真宗大谷派
青龍山西光寺
珠洲市正院町正院

二〇二六年・令和八年

仏暦二五六九年の幕開け

修正会（しゅしようえ）で

スタート！



修正会のお勤め（2026/1/1）

一月一日午前十時から、住職と坊守

・寺族で能美

市寺井で借り

ている家の仏

間で、修正会

を勤めさせて

いただきました。

修正会は、

お正月に行う

法会（法要）

のことです。

正月に修する法会として「修正月会」

と呼ばれていたものが、省略されて修

正会と呼ばれるようになりました。

修正会は平安時代ごろから続く、伝

統ある行事です。一年のはじめに、五

穀豊穰や世の中の安定、人々の幸せを

願うことを目的として行われます。ま

た無事に新年を迎えられたことを仏様

や宗祖に感謝するという意味合いもあり
ます。

修正会は、宗派によってやることや

意味が異なる点が特徴です。特に浄土

真宗は、ほかの宗派とは目的が大きく

異なります。自分自身を振り返って、

今生きていられることに感謝し、新し

い気持ちで一年を過ごせるよう心の準

備をすることを目的としています。

新年を祝うと同時に今年もお念仏と

共に日々を送らせていただく誓いを新

たにするお正月のすがすがしいお参り

です。

阿弥陀さまの前で新しい年を迎えさ

せていただいた喜びと仏恩報謝の気持

ちをもってお勤めをさせていただきました。

元旦や

今日のいのちに

遇う不思議

今日も

一日が始まりました

おめでとうございます

正月の西光寺伝道掲示板より

新しい年を迎えた今年の西光寺伝道

掲示板の言葉は、昨年と同じ木村無相

さんの言葉に、挨拶を付け加えました。

私を含め多くの人は、お正月を迎え

られたことを当たり前としか思ってい

ないでしょう。ところが、木村無相さ

んは、元日という今日、いのちを恵ま
れたということが、当たり前のことでは
なく、不思議なことだということです。
「会う」ではなく「遇う」という漢字
が使われているのは、「遇う」には、「た
またま偶然であう」という意味がある
からです。つまり、今日、いのちを恵
まれたのは、当たり前のことではなく、
たまたま偶然なことであり、不思議な
こと、有難いことだということです。
ご門徒の皆さま、有縁の皆さま、今
年もよろしく願います。

現在も能美市寺井町で一軒家を借
り、西光寺仏具や七条袈裟・衣・
お経本などを保管しています。
今年も、蛸島第1団地と寺井町
第2西光寺と行き来しながら西光
寺復興に向けて活動します。

西光寺連絡先

○電話 0768-82-0856

○携帯 090-4689-6318

○住所

① 珠洲市蛸島町鉢ヶ崎1の3

蛸島第1団地 10-5

② 能美市寺井町ほ37-22

西光寺再建に向けて

昨年六月末に、西光寺の公費解体が終わりました。現在西光寺本堂や広間など庫裡（住まい）・鐘楼堂は公費解体で更地になっていきます。残っているのは、式台（お参りがあるときの僧侶方の玄関）と三畳間と六畳間の和室です。

解体を受けて、社寺専門の建築会社数社に仮本堂（3 間×3 間）の建設見積を提示してもらいましたが、建築坪単価の異常な高騰化で地震保険や本山からの共済金では建設は非常に困難な状況です。

震災から二年、未だ本堂再建の目処がたたず皆様に申し訳なく心苦しく思いますが、できるだけご門徒の皆さまに負担をかけず、できるところから少しずつ前へと考えています。

①本堂・庫裡・鐘楼堂の建設に向けて、今回特例で適用された「能登半島地震復旧寄附金制度」を使い、「指定寄附金」を広く募集する。

*「指定寄附金」とは、通常国宝又は重要文化財保護のための修理等に対する寄附金で、財務大臣が指定したものをいいます。寄附者は所得税または法人税の税制上の優遇措置を受けることが出来ます。特に法人（会社等）の場合は、寄附金の全額を損

金に算入できます。



西光寺式台

る合葬墓（俱会一处）を整備し、新たな合葬墓とする。

*合葬墓とは、遺骨を他の人の遺骨と一緒にして、供養するお墓のことをいいます。西光寺が将来にわたって管理していくので、「お墓を継ぐ人がいない」「お墓がない」「墓じまいをしたい」という方でも安心して利用することが出来ます。



本堂跡地南墓地側

⑤現在の墓地は、被害状況が甚大で根本的な整地・修復は不可能な状態です。そこで、本堂跡地南側を新たに区画整理し、希望する方に墓地として提供する。

下間蓮崇伝 第二回

前回のあらすじ

西光寺開基・蓮崇の本名は心眼（しんげん）といい、越前の出身で、人からは「安芸」と呼ばれていました。

蓮崇は、蓮如上人の教えに感銘を受けて、蓮如上人に帰依しました。

ほどなく、比叡山の弾圧により蓮如上人は、都から遠く離れた越前吉崎へと逃れました。

吉崎御坊（よしざきごぼう）建立

比叡山の弾圧を逃れるために、文明三（一四七一）年、蓮如上人は越前（福井県）吉崎への移転を決行しました。

御文には、「文明第三、初夏（四月）

上旬のころより、江州志賀群大津三井寺南別所辺より、なにとなく、ふとしのび出でて、越前・加賀、諸所を経回せしめおわりぬ。よつて、当国細呂宜郷内吉崎というこの在所、すぐれておもしろきあいだ」と記されています。

大津（滋賀県）三井寺からしのび出て、北陸のいくつかのところを見て回ったが、その中でも吉崎というところがとてもすばらしかったと書かれています。

吉崎に移ると、蓮如上人はさつそく御坊（寺院）建立にとりかかりました。多くの門徒が積極的に奉仕し、移転の数か月後、文明三年の七月に吉崎御坊は完成しました。

は、もの凄く仕事ができました。蓮如上人はそんな彼の才能を買って、最側近である奏者番（＝現在の社長秘書）に取り立てます。さらに



蓮如上人御影道中 2025/11/4 西光寺境内

さて、心眼（しんげん）が、蓮如上人によつて「蓮崇」の名を与えられ重用されはじめたのは、吉崎御坊移転がきっかけのようです。彼はこの辺りの出身でしたから、土地勘があり事情にも詳しくあったと思われま

その翌年から加賀・能登・越中（富山県）はもとより、信越（長野県・新潟県）・奥羽（東北）などの遠国からも参詣者が集まり始めました。そして、「多屋」という参詣人のために宿泊所でもできました。さらに参拝者めあての商人たちも集まりだし、商店ができ、問屋町ができました。また、海岸には船着き場ができて、陸路だけでなく船での参拝もできるようになりました。

代々本願寺に仕える下間（しもつま）一族の姓を与えられました。以降心眼は「下間蓮崇」と名乗るようになりました。

コピーされた御文（おふみ）

蓮如上人は各地の弟子たちに、本願寺の教えを分かりやすく説いた手紙を送りました。蓮如上人はこれをテキストとして採用したのです。各地の指導者らは、この「御文」を門徒の前で読み聞かせました。

御文の特徴として挙げられるのは、これが「素晴らしい宝物だから、大事に秘蔵し滅多に人目に触れさせないこと」などという堅苦しい性格のものではなかった、ということです。

それどころかこの御文、盛んに書写することを奨励されました。当時の平易な言葉で書かれていて、簡単に書写が可能なのです。御文をいただいた門徒はこれをどんどん書き写していきます。コピーが更にコピーを産み、御文はどんどんと拡散されていきました。蓮如上人はこの御文を、生涯で二〇〇通以上書いています。これら二〇〇通がコピーされ広がっていききました。これらを手にした在家門徒たちは布教の先頭に立ち、各地に教えを広げていったのです。

御文をテキストとして各地に送り、更に現地でそれを筆写させて増やしていくアイデアを思い付いた男こそ、蓮崇だったのです。

西光寺ライン公式アカウント

スマートフォンのカメラを使い左下のQRコードを読み込むと、西光寺ライン公式アカウントを友だちに追加できます。

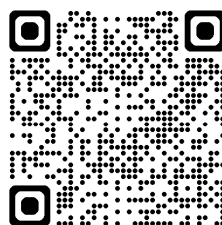


連絡は LINE で出来ますので、葬儀のことや今後のことに関する相談や質問は LINE でお気軽にお尋ねください

西光寺ホームページ

<https://syoinsaikouji.com>
サイト名

「蓮如上人ゆかりの寺西光寺



スマートフォンをお持ちの方は、スマートフォンのカメラを使い左のQRコードを読み込み、西光寺サイトに越し下さい。

令和 8 年度（2026 年度） 年回法要表

没 年	年回忌	没 年	年回忌	没 年	年回忌
昭和52年(1977年)	<u>50回忌</u>	平成6年(1994年)	<u>33回忌</u>	平成23年(2011年)	16
昭和53年(1978年)	49	平成7年(1995年)	32	平成24年(2012年)	15
昭和54年(1979年)	48	平成8年(1996年)	31	平成25年(2013年)	14
昭和55年(1980年)	47	平成9年(1997年)	30	平成26年(2014年)	<u>13回忌</u>
昭和56年(1981年)	46	平成10年(1998年)	29	平成27年(2015年)	12
昭和57年(1982年)	45	平成11年(1999年)	28	平成28年(2016年)	11
昭和58年(1983年)	44	平成12年(2000年)	<u>27回忌</u>	平成29年(2017年)	10
昭和59年(1984年)	43	平成13年(2001年)	26	平成30年(2018年)	9
昭和60年(1985年)	42	平成14年(2002年)	25	令和元年(2019年)	8
昭和61年(1986年)	41	平成15年(2003年)	24	令和2年(2020年)	<u>7回忌</u>
昭和62年(1987年)	40	平成16年(2004年)	<u>23回忌</u>	令和3年(2021年)	6
昭和63年(1988年)	39	平成17年(2005年)	22	令和4年(2022年)	5
平成元年(1989年)	38	平成18年(2006年)	21	令和5年(2023年)	4
平成2年(1990年)	37	平成19年(2007年)	20	令和6年(2024年)	<u>3回忌</u>
平成3年(1991年)	36	平成20年(2008年)	19	令和7年(2025年)	<u>1周忌</u>
平成4年(1992年)	35	平成21年(2009年)	18		
平成5年(1993年)	34	平成22年(2010年)	<u>17回忌</u>		

- 【本山からのお知らせ】
 ① 災害用三折御本尊（三折本尊・勤行
 本2冊）の提供【無償】
 ② 帰敬式法名紙の再交付【無償】
 ご希望の方は、西光寺までご連絡

下さい。

ご法事を考えられている方は、年回法要表をご参考になりながら、日程や法事場所などについてご相談下さい。

○第2 西光寺（寺井） 八畳の仏間がありますので、少人数のご法事はできます。

○善証寺（正院） 少人数のご法事はできます。



Ⅱ 編集後記Ⅱ

新しい一年が始まりました。

お正月は少人数で静かに過ごされた方も多いのではないのでしょうか。お正月を初めて一人で迎えた方もおられるでしょう。

一日中誰とも会話をせず、ちょっとでも健康に不安を抱いたり、人間関係で落ち込んだりすると私たちの心は急に寂しさと不安で一杯になります。

そんな心許ない私に、「いつも一緒だよ、独りじゃないから安心しなさい」と常に呼びかけて下さっているお方がおられます。そのお方は阿弥陀様です。

阿弥陀様は楽しいときも悲しいときもいつも静かに私たちを見守って下さり、「必ず救う、われにまかせよ」と呼び続けて下さっています。

私たちの眼で見えるものは限られています。それなのに自分の眼で見えるものが全てであるかのように錯覚して生きています。私の周りには目で見えないものも沢山あります。風や匂いや人の優しさです。阿弥陀様のはたらきも、私の眼では見ることができませんが、阿弥陀様はいつも私を見ておられます。

今年も、無常の人生を思いつつ、聞法の人生を重ねつつ、弥陀の名号を称えつつ、一歩ずつお浄土の道を進むことができたと思います。

南無阿弥陀仏